

11月11日～12月12日
電池月間

でんち

社団法人 電池工業会

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8
機械振興会館内

電話 (03) 3434-0261 (代)

E-mail: bajapan@hi-ho.ne.jp

ホームページ <http://www.baj.or.jp/>

振替口座 東京8-91022

発行人 木村侃丘

定価1部郵送による年決め2,400円

平成13年5月1日

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

「資源の有効な利用の促進に関する法律」 施行への対応について 記者懇談会を開き16紙誌が出席

本年4月1日の「資源の有効な利用の促進に関する法律」の施行により、小形二次電池（充電式電池）の回収・再資源化が義務化される。そこで3月27日、(社)電池工業会は、記者懇談会を開催し、4月1日付けで、「小形二次電池再資源化推進センター」を設立し、義務者である小形二次電池メーカー、小形二次電池使用機器メーカー及びそれらの輸入販売業者が共同して、回収・再資源化の義務を遂行する旨を発表した。

機械振興会館で開かれた記者懇談会には、一般誌、工業産業紙、家電関連業界紙、自動車関連会紙等16紙誌、16人の記者が出席した。

当工業会からは、木村専務理事を始めとする11名が参加、会見に臨んだ。

懇談会は、中村泰清広報総合委員長の司会で進行、木村専務理事の挨拶に続き、当工業会榎本部長より説明が行なわれた。

発表の要旨は以下の内容になる。

- ・当工業会は、十数年前より「小形二次電池の貴重資源回収」を重要課題とし、自主的活動を通じて多くの経験・ノウハウを蓄積してきましたが、さらに「小形二次電池の回収・再資源化体制」を拡大・整備する。
- ・これには「資源の大量消費と使用済み製品の廃棄を改め、それらを有効に利用することで廃棄物発生抑制と環境保護を図る」という目的のもと、小形二次電池使用機器メーカーは小形二次電池が使用されている旨の製品への表示とともに電池の取り出しを容易にし、取り出された電池を回収して電池メーカーに渡すことが求められ、電池メーカーはそれを再資源化することが責務となるという法律の背景がある。
- ・また、小形二次電池の販売形態は、ほとんどが機器に組込まれ、使用機器メーカーから販売される形であり、使用機器メーカーの協力が不可欠である。

なお、対象となる使用機器は、ビデオカメラ、ヘッドホンステレオ等の家電、パソコン、プリンター等の事務機器、コードレスホン、ファクシミリ等の通信機器、非常用照明器具、誘導灯等の防災機器、電動車いす、血圧計等の医療

機器、電動工具、電動式玩具等の雑貨その他で29機種が対象となる。

- ・そのような中、当工業会は「小形二次電池再資源化推進センター」を設けて、対応する。

同センターは、使用済み小形二次電池の自主回収及び再資源化システムの構築・実施、一般消費者、関係業界、自治体、市民団体等へのリサイクル推進の協力要請のための普及啓発・情報提供などを行う。

一方「小形二次電池の回収・再資源化システム」は、主務大臣の認定を取得し、廃棄物処理法の配慮を受ける予定である。

指定再資源化事業者が同センターの会員となり、販売量に基づいた会費を分担し、回収拠点を登録し、同センターへの引取りを連絡すれば、登録運搬業者が無償で引き取り、登録リサイクラーへ届けることになる。

- ・「小形二次電池再資源化推進センター」に加入すると次のメリットがあり、指定再資源化事業者はできるだけ、加入することを推奨している。
- ・指定再資源化事業者として要求される義務（回収・再資源化、普及啓発及び情報提供、回収量及び再資源化率の報告）を果たすことができる。
- ・単独で回収・再資源化を実施する場合、排出、収集・運搬、処分など「廃棄物処理法」を遵守できるシステムを構築する必要があるが、同センターに加入し、同センターが提供するシステムを利用することにより、廃棄物処理法の配慮が受けられる。
- ・共同で運営される効率的な回収システムが利用でき、経済的である。
- ・単独での回収・再資源化に比べ、管理業務の簡素化が期待できる。

小形二次電池再資源化推進センター プロフィール

- 1) 名 称：社団法人電池工業会 小形二次電池再資源化推進センター
- 2) 住 所：〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館内
- 3) 発足日：平成13年4月1日（設立3月9日）
- 4) 連絡先：推進センター事務局
 - ・電 話：03-3434-0261
 - ・ファックス：03-3434-2691
 - ・E-mail：bajapan@hi-ho.ne.jp
 - ・U R L：http://www.baj.or.jp

平成13年度第1回一次電池部会開催

平成13年4月4日午後2時より、機械振興会館(5S-3会議室)において、小原部会長(FDK(株)常務取締役)を議長に平成13年度第一回一次電池部会が開催された。冒頭に小原部会長と木村専務理事の挨拶があり、引き続き事務局報告、専門委員会からの報告、平成13年度一次電池部会支出予算案の説明を行い、最後に小原部会長退任に伴う次期部会長、副部会長の選出を行った。

○出席者:部会委員15名 専門委員会委員長4名
事務局6名 合計25名

1.事務局報告

・木村専務理事より今回の部会をもって退任される小原部会長への御礼の挨拶と4月から活動を開始した、

①蓄電池設備認証センター ②小形二次電池再資源化推進センターの2つの新組織と一次電池の2月度の出荷状況*について各々報告があった。

*2月の出荷は非常に悪く、電池全体の出荷金額が前年比87.6%の水準に低迷している。本年中に北米の景気が回復することを期待したい。

・中国の電池の水銀含有量の制限に関する規定等の内容について説明があった。

・乾電池再資源化実験結果の説明と乾電池埋め立て実験(15年)の記録ビデオの紹介等があった。

2.専門委員会報告

・環境委員会報告

平成12年度活動結果、13年事業計画と予算、並びに委員会組織変更案について説明があり、承認された。

・技術委員会

平成12年度活動内容、13年度取り組み課題について、国際規格の標準化や調整を中心に報告があった。

・PL委員会

委員会活動を今後は強くアピールしたいとの前置きに続き、昨年発生した諸問題の分析結果と平成13年度の活動内容の報告があった。

・資源委員会

昨年の取り組み結果、並びにグリーン調整関係を中心とした平成13年度活動内容が説明された。

3.平成13年度一次電池部会支出予算案の説明と承認

平成13年度予算案が昨年度予算並びに実績見込みと対比して説明があり、承認された。

4.次期部会長、副部会長の選出

協議の結果、次期部会長には白石和夫氏(松下電池工業)又副部会長には梶井修氏(日本マクセル)が全会一致で選出された。

今回の部会をもって退任されるFDK小原委員長は今後は、FDK販売株式会社で活躍される事になっています。今までのご指導誠にありがとうございました。

充電式電池リサイクルキャンペーンへのご協力に対する感謝状(卓上トロフィー)の贈呈

(社)電池工業会は、2000年度「充電式電池もっともってリサイクルキャンペーン」において、ニカド電池を始めとする小形二次電池の回収に大きな成果を上げられた日本電気大型店協会(NEBA)10法人、全国電機商業組合連合会(全電商)と(社)日本電機工業会に対し卓上トロフィーを贈呈、感謝の意を表しました。

尚、キャンペーン期間中に回収出来たニカド電池を中心とした小形二次電池の実績は63.1トンとなり、前年比

182%と大巾アップになりました。

御協力を頂いた上述三団体を始め、側面より協力と支援を頂きました、(株)日本SPセンター、佐川急便(株)、(株)電通、日本リサイクルセンター(株)、東邦亜鉛(株)の皆様に対し、新ためて感謝いたします。協力ありがとうございました。



JIS規格

◎電池のJIS規格の改正と制定について

最近改正、制定された電池のJIS規格には以下のものがあります。

(出版元 財団法人日本規格協会 TEL:03-3583-8071)

二酸化マンガンリチウム一次電池	JIS C 8512 : 2000	平成12年12月20日改正	本体1,800円(税別)
リチウム一次電池の安全性	JIS C 8513 : 2000	平成12年12月20日制定	本体1,800円(税別)
ポータブル機器用リチウム二次電池	JIS C 8711 : 2000	平成12年12月20日制定	本体1,600円(税別)

蓄電池設備整備資格者講習実施予定表 (平成13年度)

実施地	実施月日(定員)	講習会場	申請書提出先	申請期間(申請方法)
宮城県	6月28日(木) 29日(金) (100名)	宮城県管工事会館 仙台市青葉区本町3-5-22 TEL 022-223-3650	(社)宮城県消防設備協会 〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-5-22 TEL 022-223-3650	5月16日～5月28日 (郵便又は持参)
北海道	7月3日(火) 4日(水) (100名)	北海道建設会館 札幌市中央区北4条西3丁目 TEL 011-261-6218	(社)北海道消防設備協会 〒060-0005 札幌市中央区北5条西6-2 札幌センタービル内 TEL 011-205-5951	5月25日～6月8日 (郵便又は持参)
愛知県	8月29日(水) 30日(木) (200名)	愛知県産業貿易館 西館 名古屋市中区丸の内2-4-7 TEL 052-231-6351	(財)愛知県消防設備安全協会 〒461-0011 名古屋市中区白壁1-50 愛知県白壁庁舎2階 TEL 052-962-0707	7月4日～7月12日 (郵便又は持参)
大阪府	9月26日(水) 27日(木) (200名)	大阪府農林会館 大阪市中央区馬場町3-35 TEL 06-6941-0821	(財)大阪府消防設備協会 〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町2-13 松村ビル TEL 06-6943-7654	8月20日～8月31日 (郵便又は持参)
香川県	10月16日(火) 17日(水) (100名)	香川県建設会館 高松市磨町6-4 TEL 0878-51-0845	(社)香川県消防設備保守協会 〒760-0018 高松市天神前5-30 高松市上下水道工事業協同組合ビル TEL 0878-33-4797	8月13日～8月27日 (郵便又は持参)
鹿児島県	11月6日(火) 7日(水) (150名)	鹿児島県消防会館 鹿児島市山下町13-51 TEL 099-223-2630	(社)鹿児島県消防設備安全協会 〒892-0816 鹿児島市山下町13-51 鹿児島県消防会館内 TEL 099-226-1780	9月25日～10月10日 (郵便又は持参)
東京都	11月19日(月) 20日(火) (250名)	第2電波ビル 千代田区外神田2-14-10 TEL 03-3253-9151	(社)電池工業会 〒105-0011 港区芝公園3-5-8 機械振興会館 TEL 03-3434-0261	9月17日～9月25日 (郵便又は持参)
神奈川県	12月4日(火) 5日(水) (200名)	神奈川県電気工事会館 横浜市中区三吉町4-1 TEL 045-251-4671	(財)神奈川県消防設備安全協会 〒231-0023 横浜市中区山下1番 シルクセンター2階 TEL 045-201-1908	10月1日～10月19日 (郵便又は持参)
福岡県	平成14年 1月16日(水) 17日(木) (200名)	福岡市民防災センター 福岡市早良区百道浜1-3-3 TEL 092-847-599050	(財)福岡県消防設備安全協会 〒810-0073 福岡市中央区舞鶴3-9-7 福岡消防局内 TEL 092-722-1265	12月3日～12月26日 (郵便又は持参)

(注-1) 定員になり次第締め切りますので、申請期間内早めに申請して下さい。

受講料金 25515円(本体-24300円、税-1215円)

郵送料金 1部=120円、2部=160円、3～4部=200円、5部=240円、6～7部=270円、8部以上=390円

いずれかの資格を有する方

受講資格 ①消防設備点検資格者の免状を交付を受けている者

②消防設備士【甲種消防設備士(1類～4類)】【乙種消防設備士(1類～4類)】

③建築士

④電気主任技術者

⑤電気工事士

⑥蓄電池設備に関して3年以上の実務経験を有する者

⑦蓄電池設備に関し、上記①～⑥の同等若しくは同等以上の技能を有する者であることを講習委員会で認められた者

(注-2) 尚、合格者に対して5年毎に再講習を実施していますが、再講習については御本人宛に直接日程等を連絡します。その折りに申し込みをお願いいたします。

『電池の知識』の発行について

電池の種類、作り方、リサイクル等の知識を身に付けてもらう事を目的に、昨年5月から中高校と短期大学の教材の副読本として、編集を開始した『電池の知識』が3月末に完成、4月6日に全国の中高校、及び一部短期大学へ配付を行ないました。

中味は、第一章電池の歩みから始まり、以下、電池を作る、電池の種類と特性、暮らしと電池、電池の処理とリサイクル、電池の未来の6章、全68ページからなっていて一次、小形二次、二次の各電池の中味等が写真とイラストを大巾に取り入れる事等で判りやすく書かれています。

一読をお勧めしたく、ご興味のある方は、(社)電池工業会まで連絡をお願い致します。

尚、定価は一部1000円(税別)になっています。



平成13年 3月度の電池工業会活動概要

部会	3月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
その他 特別会 他議	6日(火)	小形二次電池部会	*小形二次電池回収及び再資源化プログラムの承認 *2001年度の予算運用に関して承認
	9日(金)	臨時理事会	*資源の有効活用促進に関する提案、正会員入退会の件等の審議
	22日(木)	広報総合委員会	*再資源化推進センターの広報について、バッテリー賞WG発足と委員任命、電池の副読本の配布先について、広報誌「でんち」のリニューアルについて討議
二次電池部会	2日(金)	二次電池部会	*平成12・13年度活動結果と計画。(産)密閉形鉛蓄電池のリサイクル推進
		PL委員会	*「蓄電池の安全確保のための表示ガイドライン」第3版の検討
	6日(火)	小形鉛分科会	*SBA規格「据置蓄電池の容量算出法」改正を決定
	8日(木)	EV鉛分科会	*H12年度活動内容の纏め。電動車両協会規格案の審議
	9日(金)	PL委員会(代表)	*同上、校正
	12日(月)	広報委員会	*平成13年度活動計画の審議
		HEV用電池分科会	*H12年度活動内容の纏め。技術動向調査の纏め
	13日(火)	自動車鉛分科会	*次回(5月)IEC国際会議で審議する規格に対する日本案を決定
	14日(水)	自動車用電池 需要予測小委員会	*第3者機関も含めた、需要予測に関する審議
		産業用電池リサイクル・小形シール鉛合同委員会	*産業用密閉形鉛蓄電池(民生用を除く)のリサイクル審議、プロジェクト発足
	15日(木)	二次電池リサイクル拡大事務局委員会	*産業用密閉形鉛蓄電池、その他の蓄電池リサイクルシステム審議
		据置アルカリ分科会	*前回(2月)IEC国際会議の出席報告。JISの改正方針
	21日(水)	電気車鉛分科会	*SBA規格改正案に関する標準化委員会コメントに対する回答を決定
		小形シール鉛分科会	*産業用密閉形鉛蓄電池(民生用を除く)の、リサイクルシステム審議
		電気車用電池リサイクル分科会	*現状リサイクル状況把握・確認
	23日(金)	資材小委員会	*平成13年度活動計画の審議、共用金型の改造・新調の方針決定
		自動車用電池技術サービス小委員会	*鉛蓄電池用電解液のMSDS内容の審議。電池工業会HP掲載内容を決定
	26日(月)	産業用密閉形鉛蓄電池リサイクルプロジェクト(委)	*申請書類準備(本文、各社書類の整理)
	27日(火)	据置鉛分科会	*H13年度改正のSBA規格2件の審議。電池蓋の材料表示方法を決定
	28日(水)	EV用電池委員会	*管轄の委員会、分科会のH12年度活動報告。活動終了分科会を廃止
	29日(木)	二次電池リサイクル拡大事務局委員会	*リサイクラーへの説明会(密閉形鉛蓄電池のリサイクル事業認定申請)
	30日(金)	産業用密閉形鉛蓄電池リサイクルプロジェクト(委)	*申請書類準備(本文、各社書類の整理)
小形二次電池部会	1日(木)	新種電池研究委員会	*電池討論会、リチウム国際学会、年間トピックスなど
	6日(火)	臨時小形二次技術委員会事前協議	*ニカド/ニッケル水素分科会の統合に併せた、主査輪番を協議し改訂案作。
	7日(水)	海外環境WG会議	*RBRCガイドラインWG及び世界の電池規制ガイドラインの概要まとめ
	13日(火)	広報委員会	*リサイクルを中心とした平成13年度活動内容の決定
		国土交通省とのICAO対応会議	*ICAOシンガポール会議における業界提案を提出する事を確定
	14日(水)	リチウム二次分科会	*IEC規格の継続審議及び次年度主査:日立マクセル島委員を委嘱
		アルカリ分科会	*モデル自治体の検討:上尾市、新リサイクラーの検討(日本重化学)など
	15日(木)	工場環境委員会	*PRTR法対応電池版ガイドブックの検討、家電リサイクル、OAリサイクル見学
		情報通信機器課・国際部門との会議	*EC問題及び中国法令等に関する経産省の外交支援を要請
	16日(金)	再資源化委員会	*小形二次電池リサイクル対応:認定の書類準備の件、リサイクルプログラムの検討
		ニカド/ニッケル水素分科会	*IEC規格の継続審議及び蓄電池用語報告と統合分科会主査案件は未決着
	20日(水)	リサイクラー会議	*改定リサイクル法の説明、認定の書類対応、2000年度の回収状況など
	22日(木)	PL委員会	*安全確保のための表示ガイドラインの検討、2001年度活動計画など
	23日(金)	業務委員会	*平成13年2月度の投票出荷実績の検討、2001年～2003年の需要予測
		国連対応委員会	*ICAO対策、アジア地区におけるVTCP説明会等を検討
一次電池部会	26日(月)	臨時小形二次技術委員会	*ニカド/ニッケル水素分科会の統合に併せた、主査輪番を協議し結論固め。
	27日(火)	第113回・海外環境委員会	*欧州の現状、WGの取り組み、新年度の計画と体制確認
	27日(火)～28日(水)	リチウムイオン分科会	*アサカ理研の見学会、再資源化及び回収プログラムの検討など
	13日(火)	広報委員会	*平成13年度広報活動の内容と分担、及び実施スケジュールの決定
	14日(水)	器具業務委員会	*平成13年度活動内容の決定と技術委員会との統合について協議
	15日(木)	器具技術委員会⇒(社)日本電球工業会	*SBA規格審議後、先方の団体規格「携帯電灯用電球」の審議に参加
	23日(金)	PL委員会	*平成13年度活動内容の決定と安全性啓蒙活動の推進方策の協議
	27日(火)	IEC/規格/リチウム小合同委員会	*平成12年度JIS規格解説の最終審議とIEC会議直前の国際規格対応審議

業界動向

***市販ニッケル水素電池** 大電流を必要とするデジカメ、PDA等のIT商品の爆発的な普及により、市販ニッケル水素電池の市場が急拡大中。来年度は1000万個(4割増)の需要が見込まれている。
(3月1日付 電波)

***ソニー ネットワークウォークマン** で業界初の耳かけ式を4月21日から発売。電池を含む重量は95g、単4形ニッケル水素電池を使用した場合で約6時間の再生が可能。
(3月2日付 電波&日経産業)

***日立マクセル** 携帯電話用のニッケル水素電池から撤退、携帯電話用電池は角形リチウムイオン電池に生産を特化へ。
(3月5日付 日刊工業)

***旭化成** 燃料電池用の高分子電解質膜の開発プロジェクトを立ち上げ、2003年を目処にベンチスケールでの量産化を狙う。
(3月5日付 化学工業日報)

***松下電池工業** 市販ニッケル水素電池の単4/ガム形の高容量品を3月10日から発売。容量は、同社品に比べ両品とも8%の容量アップがなされている。
(3月6日付 電波)

***ジーエス・メルコテック** 角形リチウムイオン電池の海外(上海)生産を大幅に強化、二年の内に月産400万個体制へ。
(3月8日付 化学工業日報)

***松下電池工業** 国内外で使用可能な充電器二機種を開発、3月10日から発売。交流100V~240Vに対応している為、コンセントアダプターがあれば変圧器がなくて海外使用が可能。
(3月8日付 日経産業&日刊工業)

***三洋電機ソフトエナジーカンパニー** 中国(蘇州)におけるニカド電池の生産を拡大、4月からバック加工を開始。尚、規模は月産100万パックを予定中。
(3月9日付 電波)

***松下電池工業** 車内掃除に便利な充電式コードレス掃除機(サイ・テキ・キ・バ)を4月1日から発売、生産は月産1万台を予定中。
(3月10日付 電波)

***三洋電機** 自動車用蓄電池の取り組みを本格化、主力拠点となる鎮岩工場を中心に早ければ2002年にはフォード社向けに電池の量産を開始へ。
(3月9日付 日経産業)

***旭化成** 角形リチウムイオン電池用の大孔経タイプのポリオレフィン系セパレーターの大幅増産を目指し、年産二千三百万平方メートル体制を六月から構築する。
(3月12日付 化学工業日報)

***日輝化学** リチウムイオン電池の正極材となるマンガン酸リチウムの量産体制が1月に完成、運転を開始。尚生産規模は月産9トン。
(3月9日付 化学工業日報)

***三洋電機** 2001年度中にリチウムイオン電池の生産能力を15%アップ、月産2000万個から2300万個強に引き上げる。又、ポリマーリチウム電池は、PDA用の大型薄形電池の売り込みを中心に月産50万個から70~100万個に増産を計画。
(3月15日付 日経産業)

***FDK** アルカリ乾電池の生活拠点であるFDKインターカリン(インドネシア)に新工場が完成、近く本格稼働を開始する。尚、生産はAA、AAAトータルで月産3300万個を予定中。
(3月15日付 化学工業日報)

***三洋電機** 電池の種類別の事業部体制を4月1日付で顧客対応別等の機能別事業部制に再編、電池の種類別の枠を越えた効率的な開発等体制を整備。
(3月16日付 日経産業&化学工業日報)

***ソニー** リチウムイオン・ポリマー電池でメキシコに続き中国(無錫)での拠点作りが完了、生産能力は内外で月産550万個体制へ。
(3月19日付 化学工業日報)

***デルフト工科大(オランダ)** 補聴器機能を持つ新型眼鏡をデルフト工科大が開発、現在複数の関連企業がこの眼鏡の商品化を急いでいる模様。
(3月19日付 日刊工業)

***トイカメラ** パソコンを購入した、デジカメをとりあえず使って見たいと言ったユーザーニーズが、トイカメラと呼ばれる一万円以下のデジカメ市場を拡大させている。この為2001年度は国内で100万台の需要が見込まれている。
(3月20日付 電波)

***日本マクセル** ポリマーリチウムイオン電池の小型、超小型タイプの量産体制を整え、今夏には同電池の生産能力を月産40万個体制に引き上げる。
(3月22日付 化学工業日報)

***公正取引委員会** 「環境にやさしい」「リサイクル可能」等の環境への配慮を示す広告に対し事業者が商品に抽象的な表示をする際は、具体的根拠を併記する等の留意事項を初めて明確化。
(3月22日付 朝日)

***NECモバイルエナジー** 携帯電話メーカーの生産計画の修正を受け、マンガン系リチウムイオン電池の増産計画を順延。
(3月23日付 化学工業日報)

***アルカリ乾電池** デジカメ、PDA、MD等のデジタルポータブル機器の市場の拡大に伴い、アルカリ乾電池の需要が伸びている。来年度の内需は、金額が1990億円と前年比6%、又個数は13億9千9百万個で7%のアップが各々見込まれている。
(3月23日付 電波)

***日立グループ** 日立製作所、日立化成工業、新神戸電機、日立金属の日立グループ4社は、電気自動車(EV)用リチウムイオン電池の本格生産に乗り出す。年内にも合併会社を設立し2003年までに生産体制を強化。
(3月26日付 日刊工業)

*** (社)電池工業会** 4月1日から法律で義務付けられる小形二次電池(充電式電池)の回収・再資源化を、機器メーカー等と共同で遂行する「小形二次電池再資源化推進センター」を同日付で設立する旨を発表。機器メーカーと協力、回収・リサイクル活動を本格化させる。
(3月27日付 電波、日経産業、化学工業日報、毎日、日本工業)

***キャノン** 2001年度のデジタルカメラの生産を大分工場に加えマレーシアでも行い、生産数量を前年の3倍増の300万台を予定中。
(2月12日付 電波)

***三洋電機** 来年始めからニッケル水素電池の小型タイプ(単4、ガム型等)の大幅増産に乗り出す方針を固める。月産1000万個規模の新ラインを徳島工場内に導入、年内にも小型タイプで月産3000万個体制を確立へ。
(3月27日付 化学工業日報)

***スタルクビッテック(バイエルグループ)** リチウムイオン電池の正極材(リチウム・ニッケル・コバルト酸化物)の生産能力の増強に乗り出し、本格的な事業活動を開始へ。
(3月29日付 化学工業日報)

***ユアサ** 中国での携帯電話生産の拡大により、引き合いが増加中の角形ニッケル水素電池の量産に乗り出す。天津の合併会社で月産250万個の生産を、9月から開始へ。
(3月30日付 化学工業日報)

***ソニー** 4月からカンパニー制を再編、携帯電話部門を主力事業へ格上げへ。
(3月29日付 日経)

***ユアサ** オンラインシステム等の情報機器関連用バッテリーに使われているシール形据え置き鉛蓄電池の寿命を二倍に伸ばした新タイプ品の開発に成功したと発表。電池交換が16年不要となる等メンテナンスフリーに貢献する為、早期に蓄電池の主力製品に育成する方針。
(化学工業日報 3月30日)

●●●●● 新製品ニュース ●●●●●

長寿命 制御弁式据置鉛蓄電池の新製品「STL-Bシリーズ」発売のご案内

YUASA(社長 大坪愛雄)は、世界で初めて大型エキスパンド極板を採用したことなどにより、当社従来品に比べ小型・軽量化と約2倍の長寿命化を実現した制御弁式(シール形)据置鉛蓄電池「STL-Bシリーズ」4機種(STL-B-200、STL-B-300、STL-B-500、STL-B-1000)を4月から本格的に発売いたします。

この製品は、当社が開発した合金および合金圧延シート製法などにより、従来は困難とされていた大型エキスパンド極板の実用化に、世界で初めて成功したものです。これにより、取替寿命が約2倍に伸び、保守・点検の手間が半減するなどランニングコストを大幅に削減することができ、また信頼性も一層向上させることができました。

この製品は、IT化社会の基盤を支えて年々需要が増加しているオンラインシステムや通信システムに不可欠な電源供給システム用、バックアップ電源用として、販売してまいります。



[特長]

1. 約2倍の長寿命
2. 小型・軽量化による省スペース化
3. コストメリットが大
4. 信頼性が一層向上
5. 設置工事が容易

●●●●● 新製品ニュース ●●●●●

小型デジタル機器やオーディオ機器に経済的な電源として 高性能 充電式ニッケル水素電池単4形とガム形を発売

松下電池工業(株)(社長 安田幸伸)は、小型デジタル機器やオーディオ機器などの電源として注目されている、ニッケル水素電池単4形とガム形をさらに容量アップして、3月10日より従来と同価格で発売します。

[特長]

〈単4形メタハイ700シリーズ〉

1. 業界最高水準の高容量 min. 700mAhを実現
 - ・当社従来品(2000年版HHR-4GPS)比 約8%増
 - ・当社ニカド電池(P-4NPS)比 約2.8倍の高容量
2. 内部抵抗が低く、デジタル機器でも安定した大電流を取り出せます
 - ・1000~1500mA放電が可能
3. 環境対応
 - ・オールPET仕様のパッケージ

〈ガム形メタハイ1400シリーズ〉

1. 高容量 min. 1350mAhを達成
 - ・当社従来品(HHF-1PSC)比 約8%増
2. Panasonicヘッドホンステレオ/ポータブルCD/MDプレーヤー専用
 - ・内部抵抗が低く、安定した電流が供給でき、均質な音で聞くことが可能
3. 機器同梱電池と同一品番なのでお買い求めが容易



単4形メタハイ700シリーズ



ガム形メタハイ1400シリーズ

海外でも充電できる ニッケル水素・ニカド電池充電器 2機種を発売

松下電池工業(株)(社長 安田幸伸)は、国内はもとより海外でも充電ができる、お手頃価格のニッケル水素・ニカド電池兼用充電器 2機種を3月10日から発売します。

本製品は、携帯ゲーム機やデジタルカメラなどデジタル機器の普及に伴い、電池のヘビーユーザーが増加するとともに、その使用がワールドワイドに広がってきたことに対応したものです。

[特長]

〈充電器BQ-330〉

1. 海外でも充電可能
 - ・AC100V — 240Vまで電圧対応
2. ニッケル水素電池・ニカド電池の両方が充電できる
お手頃価格の充電器
3. 独自の“電池取り出し簡単構造”
 - ・電池のマイナス側を上からボンと押せば簡単に取り出せます
4. 薄型・軽量・コンパクト
5. 電池逆装填防止構造
6. オーバーナイト充電

〈急速充電器BQ-375〉

1. 業界トップレベルの急速充電
2. 海外でも充電可能
3. 独自の“電池取り出し簡単構造”
4. 軽量・コンパクト
5. 4本同時充電可能で、ニッケル水素電池とニカド電池の混在充電も可能
6. 急速充電を可能にする4つの制御機能
 - ・—△制御・タイマー制御・温度制御・個別充電制御
7. 乾電池誤充電検知機能



BQ-330

.....● 新製品ニュース ●.....

リチウムイオン電池搭載シェーバー第2弾発売 3.6Vモーターで高トルク、ハイパワー

三洋電機(株)(社長 桑野幸徳)は昨年10月、業界初となる3.6Vモーター&リチウムイオン電池を搭載したシェーバー(SV-LX1)を発売いたしました。

今回、上記商品に引き続き、3.6Vモーター&リチウムイオン電池搭載シェーバーの第2弾を発売。と失せへーバーのラインアップを強化することで、リチウムイオン電池搭載シェーバーをさらに世に広め、いままでのシェーバーではパワー不足を感じていたひげの濃い方や長期出張の多いビジネスマンをターゲットに展開してまいります。

[特長]

1. 約4倍¹⁾の切断力を有する3.6Vハイパワーモーターを搭載
2. リチウムイオン電池搭載で、約1ヶ月間²⁾のロングラン使用を実現
3. 剃り残しなしを徹底追求した、独自の4枚刃構造
4. 使用性を重視した本体水洗い式シェーバー

*1.当社2.4Vモーター使用従来品(SV-DX1)と銅線切断試験で比較

*2.1日3分間使用として約30回(室温(20℃)にて充電、使用)



東芝フェイス&ボディケアシリーズ

東芝フェイスケア・DC-601 (G)

東芝まつげケア・DC-701 (V)

東芝ネイルケア・DC-801 (D)

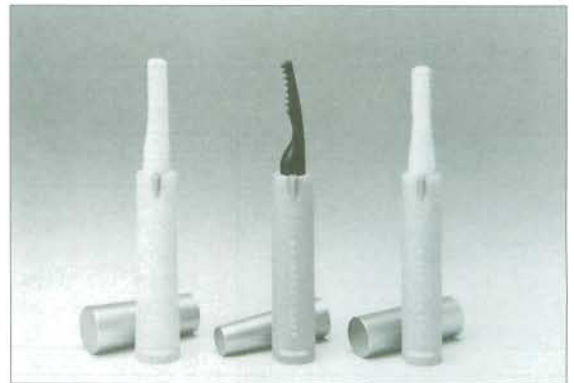
(もっときれいに!) 女性のおしゃれ心をキャッチする美しいフォルム&カラー...

東芝フェイス&ボディケアシリーズです。

化粧品のようなイメージの理美容グッズが3アイテムそろいました。

フェイスケア、まつげケア、ネイルケアが簡単、きれいにできます。

3月1日から発売。



[特長]

〈フェイスケア・DC-601 (G)〉

1. ウブ毛やエリ足のお手入れが簡単、きれいにできるフェイスシェーバー!
2. お肌に優しいソフトタッチ刃採用。
3. マユのメイクが簡単にできるマユコーム付き。

〈まつげケア・DC-701 (V)〉

1. 2列のヒーターでまつげを根本からしっかりカール! マスカラ感覚で毛先までラクにカールアップできます。
2. ヒーターが肌に触れにくいガード付き。

〈ネイルケア・DC-801 (D)〉

1. 指先の爪の形づくりから表面磨きまで、簡単、スピーディーにお手入れできます!
2. 用途に応じて選べる3種類のアタッチメント付き。
〔形づくり・表面磨き(粗め)・表面磨き(仕上げ)〕

※いずれも電源の電池は、単四形アルカリ乾電池LR03 1個使用

2月度電池および器具販売実績(機械統計)

(平成13年2月)

単位:数量=千個、金額=百万円

	単 月				1月~当月累計			
	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	495,209	59,222	87%	88%	961,543	117,082	87%	89%
全電池合計	494,356	57,789	87%	88%	959,834	114,156	87%	89%
一次電池計	361,618	12,780	92%	86%	689,359	23,655	92%	84%
マンガン乾電池計	96,739	1,963	91%	76%	184,054	3,728	91%	74%
単一	10,665	559	66%	63%	20,960	1,086	65%	61%
単二	6,509	230	78%	76%	12,040	427	73%	70%
単三	49,651	757	99%	84%	93,915	1,418	100%	85%
その他	29,914	417	95%	84%	57,139	797	95%	83%
アルカリ乾電池計	105,795	5,888	94%	93%	185,410	10,270	91%	91%
単三	71,873	3,539	112%	116%	123,526	6,073	105%	111%
単四	20,295	1,106	67%	68%	36,016	1,922	73%	74%
その他	13,627	1,243	73%	77%	25,868	2,275	70%	71%
酸化銀電池	66,573	800	83%	76%	146,560	1,742	95%	86%
リチウム電池	88,783	3,959	97%	84%	165,362	7,589	90%	81%
その他の乾電池	3,728	170	110%	94%	7,973	326	114%	82%
二次電池計	132,738	45,009	76%	89%	270,475	90,501	78%	90%
鉛電池計	3,831	13,298	95%	101%	7,643	26,600	98%	105%
自動車用	1,951	6,653	98%	93%	4,032	14,539	104%	103%
二輪用	444	694	91%	77%	830	1,403	93%	86%
小形シール	1,154	1,180	88%	87%	2,278	2,308	86%	89%
その他	282	4,771	126%	126%	503	8,350	123%	119%
アルカリ電池計	93,324	11,463	68%	75%	193,037	23,092	71%	74%
完全密閉式	43,565	4,795	92%	102%	86,779	9,578	92%	94%
ニッケル水素	49,742	6,259	55%	62%	106,228	12,819	60%	64%
その他のアルカリ電池	17	409	77%	77%	30	695	75%	73%
リチウムイオン電池	35,583	20,248	106%	92%	69,795	40,809	104%	94%
器具計	853	1,433	68%	89%	1,709	2,926	74%	99%
携帯電灯	442	493	56%	70%	919	1,015	59%	74%
電池器具	411	940	91%	104%	790	1,911	108%	121%

2月度電池輸出入実績(財務省貿易統計)

(平成13年2月)

単位:数量=千個、金額=百万円(少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります)

	単 月				1月~当月累計			
	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計(輸 出)	265,260	28,592	83%	81%	514,616	56,155	85%	84%
一次電池計	162,368	3,333	96%	82%	309,792	6,541	97%	85%
マンガン	53,192	373	119%	98%	95,491	689	114%	97%
アルカリ	24,278	428	69%	70%	43,691	769	74%	73%
酸化銀	26,938	361	111%	107%	60,962	788	120%	116%
リチウム	56,407	2,124	91%	86%	105,439	4,108	89%	86%
空気亜鉛	1,500	29	148%	115%	3,766	63	129%	96%
他の一次	54	18	2%	7%	444	125	9%	34%
二次電池計	102,893	25,259	69%	81%	204,825	49,614	72%	83%
鉛蓄電池	582	911	67%	79%	1,078	1,596	72%	81%
ニカド	33,105	3,099	89%	82%	63,699	5,997	87%	82%
ニッケル鉄	6	8	2%	34%	206	20	80%	82%
ニッケル水素	36,516	4,538	49%	53%	78,524	9,542	57%	60%
リチウムイオン	26,281	14,772	109%	96%	48,332	28,329	101%	95%
その他の二次	6,403	1,933	51%	85%	12,986	4,129	54%	98%
全電池合計(輸 入)	32,556	3,542	108%	119%	77,459	7,689	129%	115%
一次電池計	28,286	1,225	115%	164%	66,228	2,611	133%	166%
マンガン	6,902	119	79%	86%	18,095	285	87%	96%
アルカリ	19,047	424	135%	131%	43,246	916	170%	158%
酸化銀	326	8	986%	763%	745	18	898%	682%
リチウム	1,271	272	136%	589%	2,302	319	100%	189%
空気亜鉛	589	19	125%	117%	960	31	121%	109%
他の一次	149	383	61%	174%	879	1,042	222%	212%
二次電池計	4,270	2,317	77%	104%	11,231	5,078	108%	99%
鉛蓄電池	439	1,118	99%	114%	1,010	2,647	115%	129%
ニカド	1,074	370	95%	93%	2,512	803	95%	91%
ニッケル鉄	0	2	3%	72%	0	4	4%	144%
ニッケル水素	—	—	—	—	—	—	—	—
リチウムイオン	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の二次	2,757	828	69%	98%	7,709	1,624	112%	74%